

【ご参考資料】

2014年4月3日

4月2日発表のブラジルの政策金利の引き上げについて

政策金利を10.75%から11.00%に引き上げ

2014年4月2日(現地時間)、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り政策金利を0.25%引き上げ、年率11.00%とすることを全会一致で決定しました。

利上げ自体は9会合連続となりますが、利上げ幅は前回会合時に0.50%から0.25%に縮小、今回も同一の利上げ幅となります。

インフレ圧力を受け、利上げサイクル継続の観測高まる

今回の決定の背景には、インフレ圧力緩和の兆しが見られないことがあります。足元では過去数十年で最悪の干ばつが食料品価格を押し上げています。

同中銀は前回会合で、利上げ幅を0.50%から0.25%に縮小し、市場では「利上げサイクルが近く終了する」との見方が強まっていた。しかし、足元の食料品価格の高騰などによるインフレ圧力の再燃などを受け、「同中銀が利上げを継続する」との観測が、市場では高まっています。

一方、今回発表された声明では、「次回会合までのマクロ経済見通しの進展を注視し、金融政策戦略における次のステップを決定する」としています。

4月3日午前9時頃の東京外国為替市場では、ブラジルレアルが対米ドルで前日比0.3%程度、対円で同0.2%程度のブラジルレアル安となっています。

次回の金融政策決定会合は2014年5月27-28日(政策発表は日本時間5月29日)の予定です。

以上

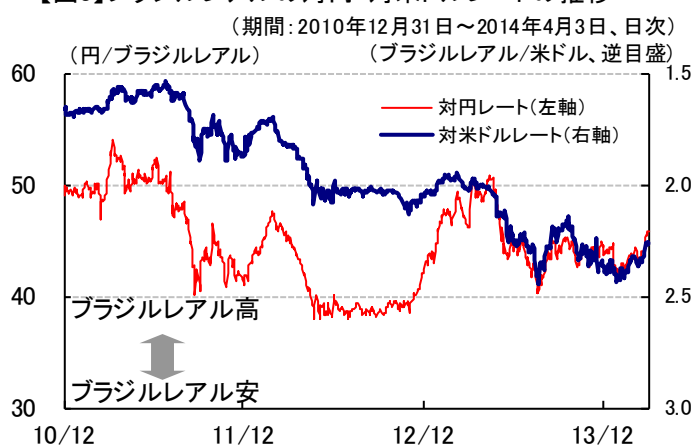
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率(拡大消費者物価指数、IPCA)(前年同月比)の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



※2014年4月3日は東京時間9時頃の値

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成